第6回 下北地区統合校検討委員会

【会議録】

令和6年10月18日（金）

むつ市政策推進部企画課

1.日　　時　令和6年10月18日（金）14:00 ～15:30

2.場　　所　むつ市役所 大会議室Ｂ

3.出　　席　　者　【委員】

高橋 興　　青森中央学院大学 特任教授

阿部 謙一　むつ市教育委員会 教育長

半田 義秋　川内町商工会 会長

越後林 達巳 大畑町商工会 会長

成田 浩之　田名部中学校長(下北地方中学校長会畑山元康委員代理)

岩渕 崇　　むつ市連合PTA 会長

石田 佳奈　むつ市連合 PTA 副会長

畑中 貢　　東通中学校PTA 会長

中塚 将行　風間浦中学校PTA 会長

髙坂 一弘　大湊高等学校PTA 会長

又村 彰　　大湊高等学校 同窓会 会長

佐々木 一浩 大湊高等学校 後援会 理事長

吉田 成人　むつ工業高等学校 後援会 理事長

欠 席：内田 大輔　むつ市商工会議所 会頭

大久保 斉　むつ市連合 PTA 副会長

堺 祐介　　大間中学校PTA 会長

津田 尚樹　佐井中学校PTA 会長

濱田 大臣　むつ工業高等学校PTA 会長

木村 努　　むつ工業高等学校 同窓会 会長

【オブザーバー】

〇青森県教育庁

佐藤 広洋 高等学校教育改革推進室 室長

渡部 裕介 高等学校教育改革推進室 主事

福士 浩司 学校施設課 課長

〇町村

山本 隆　 大間町教育委員会 教育長

村上 純一 風間浦村教育委員会 教育長

曽根 智子 佐井村教育委員会 教育長

小原 広基 横浜町教育委員会 教育長

【事務局】

角本 力　　政策推進部 政策推進部長

井戸向 秀明 政策推進部 企画課長

大橋 貴子　 政策推進部 企画課 主幹

西田 裕昭　 政策推進部 企画課 主幹

川端 寿英　 政策推進部 企画課 主任

１．開会

（司会）

それではお時間となりましたので、ただ今より、「第６回下北地区統合校検討委員会」を開催いたします。

本日はお忙しい中、御出席賜り、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めます、むつ市政策推進部企画課の川端と申します。どうぞよろしくお願いします。

なお、本日は、下北地方中学校長会から御参画いただいております、畑山委員の代理として、下北地方中学校長会会長で田名部中学校校長の成田浩之様に御出席いただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第の２「案件」に入りたいと思います。ここからは座長の高橋先生に進行をお願いしたいと存じます。高橋座長よろしくお願いします。

２．案件

（座長）

最終回となる予定でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは早速議事に入りたいと思いますが、まず本日の最大の案件、佐藤室長へ提出する要望書の最終確認について早速進めていきたいと思います。今日は残念ながら出席者数も少ないのでぜひ積極的に多く発言して、御自分あるいは地域の意向がぜひ反映されるようによろしくお願い申し上げます。

それではまず早速ですが、事務局からの説明をお願いいたします。

（企画課長）

むつ市政策推進部企画課長の井戸向と申します。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

要望書案についての最終確認ということで、皆様のお手元には要望書案を２種類配布させていただいております。そのうち右上の方に赤字で「見え消し」と書かれている要望書案を御準備ください。こちらの方は前回の会議以降、変更した部分につきまして、赤字の見え消しで示しております。前回の会議において、委員の皆様に要望書案を御確認いただきましたが、その結果、畑山委員から頂戴いたしました「定時制課程の併設」についての御意見を追加で盛り込むことについて、皆様から御了承をいただいております。

畑山委員からの御意見の部分につきましては、要望書（案）のうち、「１．生徒たちが望み、

地域が必要とする学科とし、多様な教育環境を整備すること」の項目の最後の部分に追加しております。「多様な生徒がものづくりを通じて、実社会で通用する技能を育成しながら資格取得を目指すことが可能となる、工業高校の良さを最大限に生かした定時制課程を併設すること」という内容を追加で盛り込んでおります。

なお、畑山委員は本日御欠席ではございますが、この部分に関して事前に内容を御確認いただいており、御了承を得ておりますことを申し添えます。そのほかの赤字部分につきましては、事務局において若干の表現の訂正をさせていただいておりますので、御確認いただければと思います。

事務局からは以上でございます。

（座長）

御説明ありがとうございました。

今、事務局から説明がございましたとおり、前回の会議で御提案いただいた意見をふまえた内容に変更となっておりますが、要望書（案）の内容について御意見などはございますか。

（髙坂委員）

今日最終確認ということで、私はこの会議の発足当初からいるメンバーではございませんので既に解決済みの質問になるかもしれませんが、確認という意味でお話させていただきたいと思います。

この要望書の２番「生徒達が行きたいと思える新校舎にすること」について確認したいです。

黒丸の６つ目、「太陽光発電を取り入れる等、地球環境に配慮し、さらに災害に強い学校にすること」の記載がありますが、これに関しまして、この「災害に強い学校」の方針と言いますか、方向性といいますか、それがどのような方向性なのか。俗に倒れないとか崩れないとか、焼けないとか、そういう構造的なものの意味での災害に強いということなのか。むつ工業高校のある土地は、隣接するこの地区の、人口が多い大平町、並川町、それから大湊新町、そういった方々の指定避難所になっている場所でもあります。この地区の指定避難所としては大平小学校、大平中学校がありますが、この大平小・中、むつ工業高校のこの３校でもってこの近隣の住民およそ８，５００人の指定避難所となっているわけですが、この避難所としての災害の強さについて、何か考えられているのかということを確認したいです。例えば防災拠点、災害備蓄発電機と

か毛布とか、そういった支援物資、この辺に備蓄されるものかどうかという意味の災害の強さなのかということを確認したいです。

（企画課長）

はい、事務局からこちらの項目についての考え方についてお話をさせていただきたいと思います。まず構造的な部分というお話がございました。地震など、自然災害に強いというふうな構造的な部分はもちろん災害に強いという部分に含まれておりまして、また一方で指定避難所としての機能だとか、そういう地域住民の方達の命を守るような機能を持ったような形で、ぜひトータルで災害に強い学校にしていただきたいと思っております。

（座長）

それでは次にいきたいと思います。御質問のある方どうぞ。

（半田委員）

今の宮下知事、この問題が起きた時はまだ市長でした。その当時、宮下市長は非常に憤慨して、「こんなことがあるか、地域の意見も聞かないで」という話でかなり憤慨していましたが、今は立場が変わりました。

逆になったらおそらく、統合校の話を進めるだろうと思っておりましたけれども、実際に進みました。ただ、前の宮下市長は、県に対して、地元の意見をよく聞いてくれとそういう要望を出して、おそらくそれでこの検討委員会を開催することになったと私はそのように思っております。

県教育委員会さんにお聞きします。知事や教育長から、何か特段の指示や指導がありましたでしょうか。

（佐藤室長）

ただいま半田委員の方からお話があった、この場の委員会というのは、県が設置している委員会ではないのでお答えができないと思っています。

（半田委員）

いや、いいですか。これは県の委員会ではなく、市の委員会だからと言うのでしょう。そうではなくて、教育委員会に対して、知事さんとか、教育長さんから皆様に何か御指導とか意見とか、そういうのはあったのかと聞いているだけです。あったでしょう。

（佐藤室長）

はい。この委員会というのはむつ市さんの方で設置したものになります。先日開催させていただいた情報交換会というのは、下北地区統合校のみで開催させていただいているという経緯はございます。県主催の情報交換会は、Ｒ７に開設準備委員会、Ｒ８に開設準備室を設置します。今現在Ｒ６年度開催しているのが情報交換会というものがありますが、これは下北地区のみの開設となっております。

（半田委員）

前の宮下市長は、地元の意見を聞いてと県の方に要望しました。私は、そのことで委員会なるものができたのかなと思っていましたけれども、そうでなくて、これは市の方で設置したということですか。県の方では関知しないということだったのか。

（政策推進部長）

政策推進部長の角本でございます。最後に皆様への感謝の言葉の時に話しようと思っていたことをメモしてきましたので、それを読みたいと思います。

ちょうど今、この教育改革推進計画の第２期実施計画の地区懇談会が盛んに開かれていたのが３年前です。

その後、ここにも一緒に行っていただいた皆様がいらっしゃいますが、当時の和嶋教育長様のところに今の知事で当時の市長が地域の皆様と一緒にお願いに行きました。その中で、地域の意見をもっと聞いてほしい、またそのために聞く場を設置してほしいということで要望しましたけれども、その回答というのが、「令和７年度から準備委員会で検討させていただきます」ということでしたので、地域の意見が地区懇談会で全て聞かれているわけではないというふうに市が判断いたしまして、僭越なのではありますけれども、むつ市がこの会議体を立ち上げたというのがこれまでの流れでございます。

（半田委員）

よくわかりました。市当局の努力は私も理解している。それに対して県の方でも、足を運んで我々の意見を聞いてくれたということに対して感謝したいと思っております。ただ、この要望書にいろいろと書いてありますけれども、県の方の協議会の要望だとしたら、この要望書は大抵通るのかなと、そう思っていましたけれども、これは市の設立で、市が作った要望書だとするとまず半分要望が通ればいいのかなと思っていますが、佐藤室長どうですか。

（佐藤室長）

今この場では言えないですけれども、要望書に対して、できるものとできないものと当然あると思います。いただいたものを今後拝見させていただきながら、検討していくという段取りになると思います。この場では「はい」ということは言えないと思いますので、御理解いただければと思います。

（座長）

室長として最大限の御発言をされたと思います。それでは先に進みます。他にございますか。

（佐々木委員）

今日は最後ということで、事務局の皆様お疲れ様です。要望書を見たところ、１番の「生徒たち」はひらがなですけれども、２番はなぜ漢字のままなのか意図があるのか聞きたい。

（企画課長）

御指摘ありがとうございました。「たち」の記載の仕方ですが、こちらの方で統一するのが漏れてございまして、ひらがなで統一させていただきたいと思います。大変失礼いたしました。どうもありがとうございました。

（座長）

事務局の方から訂正の説明がありましたが、よろしいですか。はい、それでは先に進みます。他にこの案についてありますか。

（成田校長）

代理で、下北の校長会にお願いしてこの場に参加者させていただいております。最初に「多様な生徒が・・・」というところで説明していただいたのですが、やはり新しいものができる、統合校にしろ、新しいのができるということで、一番最初の「生徒たちが望み、行きたい」というのはとても大事だと思っています。

そう考えたときに、２番の最後のところに県立高等学校教育改革第３次実施計画のところ、田名部、大間、新設校を見据えた校舎のあり方はとても大事だと思う。例えば今、 統合にあたって思いが沢山ありますが、あと１０年したらどうなるのか、そういうのを考えてやらないといけないと思う。現に中学校現場はもうだいぶ昔と違ってきております。

生徒達が望むというのを考えた時に、これからの生徒たちが何を望んでいくか。特に、下北の子たちは倍率が１倍を切る状況で高校に入学します。

今は田名部高校の定時制ではかなり数が多くなっています。どちらかというと、大きな集団の中で勉強するよりも、小集団でやるという特性を持った子たちが非常に多いです。

その子たちを生かすためには、やはり従来の大学に行くとか、そういうものだけでなくて、資格を取ったり、技能を身に付けていくのはとても大事な事で、何が出来るのかと言ったときに、それが定時制だったり、あるいは通信だったりということになる。県立高校で、県内を見渡してみると、定時制高校が多い所と少ない所とあります。下北だけの問題ではないかもしれないが、私立高校はもう完全にそこを切り替えて動いています。通信に関しては、スクーリングでも負担をかけないような制度になっているものもあります。

そこはやはり県立高校も同じようにして考えていかなければならないのではないか。こどもが真ん中であるのであれば、やはりこどもたちが行きたい、行ける環境をきちんとつくる、建物だけじゃなくて、カリキュラムが大事です。多様な教育環境とありますが、私はここに「カリキュラム」をやはり入れていかないといけないのかなと思っていました。

そう考えたときに、中学校の今の生徒数が減少していますが、外に行っている子たちも実は多いです。なぜかというと、地元の中にそれを支えてくれるものがない。私立が本当に丁寧にやっているのを見て、県立でもそういうのがあればいいなと思って田名部高校に行ったとしても、田名部高校の中でも限界にきている。

今新しいものとして、むつ工、大湊高校が一緒になる時に新しい風を吹かしていただければこどもたちが行きたい学校になるのではないかなと思っています。

そういう思いがあって、中学部会から意見を出しましたので、何とかお願いしたいです。

（座長）
事務局では、この発言をどのように扱いますか。

（企画課長）
成田校長先生の御意見ですが、要望書の内容の方はこのままでよろしいでしょうか。それともカリキュラムという文言を入れた方がよろしいですか。

（成田校長）
そういう捉え方としてもらえばいいです。

（座長）
成田校長の意向を踏まえて、事務局で対処するようにお任せいただけるということでいいですか。

（成田校長）
はい。

（座長）
それでは先に進みます。他にございますか。

（岩渕委員）
今回の委員会で、昨年位から交わされた活発な意見がまとまった要望書、内容として、全部実現できれば、とてもすごい学校になるのではと感じております。先ほど座長さんの方からは本日が最後だと伺いましたが、この要望書が全部通るかどうかはわからないという話もありましたが、その要望自体が、例えば可能なのかどうか、これは通ったけど、これが通らなければ意味が無いというような検討というか、回答というか、実際にはそれが要望しっぱなしで、では蓋を開けて実際はどうなのかわからない部分がある。

せっかくまとまった意見だが、そのあたりを確認したい。

（企画課長）

本日のこちらの要望書を確認していただいた後に今後のスケジュールの方でも少しお話しようと思っていましたが、こちらの方をまず要望書案として、決まりましたら青森県教育委員会様の方にこちらの要望書をお届けする形になります。その流れでございますけれども、青森県教育委員会様の方では今月から来年度の開設準備委員会に向けて、情報交換会の方を設置しておりますので、そちらの方が今年度、あと２回開催されると伺っております。そちらの方の動きも、対応の方を私たちに共有していただいて、また来年度以降の開設準備会及び開設準備室で、具体的に検討しますので、その情報も佐藤室長さんとむつ市の方で連絡を密に情報共有させていただいて、逐一、その検討の進み具合について、把握してまいりたいと考えておりますので御理解賜りますようお願いします。

（岩渕委員）

ありがとうございます。理解しました。大湊高校もむつ工業高校も、統合を望まれて積極的に目指してきたわけではないと思いますので、ぜひこの要望が１つでも多く通ることを期待しています。

（座長）

事務局は今の御意見を踏まえて要望書案を作っていただくようお願いします。それでは他にございますか。

要望書案については無いようですので、次に行きたいと思います。

２つ目の案件であります、今後のスケジュールについてですけれども、まず事務局から説明をお願いいたします。

（企画課長）

それでは事務局から今後のスケジュールについて御説明させていただきます。

お手元に「令和６年度下北地区統合校検討委員会に関する今後のスケジュール」という１枚ものの紙を配付させていただいておりますので、そちらを御確認くださるようお願いいたします。

まず本日の第６回統合校検討委員会におきまして、先ほど、委員の皆様に要望書案の内容について最終確認していただいて、御意見等を頂戴いたしました。

今後のこの要望書の内容については今いただいた御意見、また今後は統合校検討委員会の設置者でございますむつ市長の確認を経て内容が確定という流れになります。

またこの要望書につきましては、この配付させていただいております資料の方にはＩＩ月中に県の教育委員会様の方に提出する予定と記載させていただいておりますけれども、事務局としましては、今月、青森県教育委員会様が設置いたしました下北地区統合校教育内容等情報交換会の２回目の会議が開催される前に、高橋座長と山本市長とお二人で青森県風張教育長様にお届けしたいと考えておりまして、現在日程調整中でございます。

日程調整につきまして県教育委員会の皆様には御協力の方をお願いしたいと存じます。また、この要望書につきましては、風張教育長だけではなく宮下知事の方にもお届けできればと考えております。

（座長）

ただいまの事務局の説明、これからの段取りということですが、御質問等ございますか。

（又村委員）

先日、県の交換会の方へ出席しましたが、その時に県の方の説明では、むつ市から出される要望書案について揉んでいくのは、準備委員会の開設のときにというお話を聞いていますので、そうしますと、来年の４月以降ということになりますが、それで間違いありませんか。

（佐藤室長）

はい、開設準備委員会の方で検討していく形です。

（又村委員）

県の方にはこの要望書案が出されますが、それに目を通して、開設準備委員会の前にいろいろ揉むということはしないということですね。

（佐藤室長）

各項目を拝見させていただきながら、開設準備委員会につなぐ準備をしていきたいと思います。

３．その他

（座長）

他にございますか。なければ先に行かせていただきます。

その他ということになりますが、せっかくの機会ですので、しかも今日が最後ですから、委員の皆さん全員に、佐藤室長、市、報道機関にぜひ言っておきたいことを御発言いただきたいのでお願いいたします。

それでは、半田委員からお願いします。

（半田委員）

３校が１つになるというのは、私は今でも不満ですし、どうして１年生、２年生、３年生が一緒になって学校ができなかったのかなと思っていて、それが非常に残念であります。私は、散々意見を述べたし、この要望書にも我々の要望が書かれているのでこれで良しとします。

（越後林委員）

現在人口減少の中で学校が今まで通りの規模を維持するのが非常に厳しくなってきて、それが現実だとわかる。でも、こどもたちは少ないのですが、存在しているわけです。人口の多いところと少ないところというのもあるが、人数が少ないから狭めるのではなく、地方と中央の差を、やはり狭めていかないといけない。地方にいても学べる機会を確保してやるのが親の願いでもあるし、また、国の責任もあるだろうと思う。そういう観点から、人数は少なくても、学べる機会、アピールできるような、職業につながるような、そういう学校があればいい、そういう一工夫があってもいいのかな、と思う。先生が１つの学校に張り付くわけにはいかないと思うが、何校かを回りながらでもカバーしていく、そのような中で生徒も自分の存在意義を見出していける、そういう機会をいくらでも与えてあげたいと思う。

そういう意味で皆さんに知恵を出していただいて、人口が少ないこの地域のこどもたちのために、注力していただきたいと思います。

（成田校長）

つい先日、全国中学校校長会の協議会で盛岡市に行って、同じグループになった広島のある中学も、非常に人口の減少が激しくて、統合、統合で中学校が合併して、高校もその地域に１つしかない。１つしかないから、その１つの高校にいろいろな要素を盛り込もうとしている。全国ではもういろいろなことを工夫してやっている。ただやはりどこまで将来を見通しているかということになると非常に不安な状況もある。中学校であれば、東京のど真ん中と下北でやっている教育が違うというのはおかしい、だからそういう公平性というのは大人が工夫してやっていかないといけない。

これは、実は高校も一緒で、そう考えた時に、こどもの声が我々にちゃんと届いてるかどうかということが大事だと思う。

先般、大湊高校とかむつ工とか学校で説明会とか授業参観とかがあったが、本当に他の地域と比べて劣るわけじゃなくて、そういう子たちが芽を出していっている姿があるのに、それを知らないということが一番致命傷だと思います。

こどもが真ん中にあるということは、今はどこでも言われていますが、それを本当に実現してほしい。私は今年で退職になるが、この気持ちをまた校長会につなげて、来年度以降もそういう意見を発信していきたいと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

（岩渕委員）

親の立場から、県に言えることとしましては、できればやはり地元の中学校と高校の連携をもう少し密にするのが可能になれば、いろいろな部分での負担が軽減されるのではないかと想像する。それが可能かどうかは別の話ですが、多分今後も同じような課題といいますか、こどもが減っていく中で、こども達の自発的な成長が見込まれるような空気づくりを今後我々としても頑張っていかないといけないし、出来ればいいと考えている。

それとは別に、高校で文書のメール、携帯のアプリみたいなものでやっているところはありますか。

（他委員）

青森や八戸では学校からの連絡を全て学校からのアプリでお知らせしているらしい。

（岩渕委員）

それがいいか悪いかわからないが便利だということを聞いたことがある。

（座長）

佐藤室長から発言することはありますか。

（佐藤室長）

アプリを使って、学校の写真、事務連絡などをやられているかという話ですが、私のこども向けで、中学校ですが、実際そういうアプリを使って配信されています。

（座長）

次の方どうぞ。

（石田委員）

この会議に出席するのは、途中からお声がかかりましたが、先日、ジオパークの全国大会を私も見てきましたが、その時に、田名部高校の生徒さんが下北のいいところというのを発表していて、県外から来ている年配の方に、とても突っ込んだ質問をされているのを、なんて答えるのかなと横で聞いていました。みんなむつから出て行ってしまう、そこをどうやって食い止められると思うのかといったような、大人でもちょっと厳しい質問でした。やはりむつに残りたいという気持ちはあるけれども、では残れる手段があるのかというのを高校生ながら、しどろもどろしながら答えていました。

やはり地域が必要とする学科を設置してほしいというのは、こどもたちのことを考えると、いずれは大学で出てしまうかもしれないけれど、戻ったら身に付けた技術があると思えば、戻ってくるこどもたちも増えるだろうと思う。私は一度東京に出ましたけれど、むつが好きで帰ってきました。そういうこどもたちが本当に１人でも増えてくれればいいなと思っております。春から開設準備委員会が設置されるということですけども、こどもたちの気持ちだけではなく、親御さんの気持ちも汲んでいただいて、本当にむつに残ってくれるこどもたちが増えればいいなと思っています。

さきほどアプリの話がありましたが、中学校とかもやはりメールやＱＲコードでの出欠連絡な

どで先生たちの業務負担が減ったというのをお聞きしている。娘が高校生で、メールの登録はしていますが、どういう時に使うのかというぐらい配信がないので、そこは今後進んでいくのかなと期待しております。

（畑中委員）

私は第１回目からこの会議に参加していました。大湊高校のむつ工業高校のＯＢの先輩方からのお話が出たりしていたのでいろいろ聞いてきました。

両校の統合校に対して、ＯＢの先輩方の気持ちとかも十分理解した上で、やっと要望書案まで辿り着いたわけですが、前回の小学校・中学校・高校生のアンケート、保護者のアンケート、あれを見てわかるとおり、親も子も大半の人たちは、市内・下北郡内の高校に行って下北に残りたいという子が沢山いるということが皆さんわかったと思うので、新統合校が出来たら、それこそ資格とかを沢山取って、こどもたちがみんな下北に残って人口が増えることを期待したいと思っていました。皆さん、お疲れ様でした。

（中塚委員）

私も途中から、本年度から委員として入りました。

私も、半田委員が言ったように、一緒になるのがいいと思いましたが、きっと今新しい生徒が入ってきたら、若い力で伝統とかをうまくつくっていってくれるのではと対応力に期待して、あとは県の皆さんにこの要望書が１つでも多く、いい方向で通るような感じになればいいなと思いました。どうもお疲れ様でした。

（髙坂委員）

今日が委員会の最終回ということなので思うところをお話させていただきます。

いくつかありますが、最後の文言の方に付け加えられた「多様な生徒がものづくりを通じて」というところがあると思います。この多様性というものは、私が幼少期・小学校・中学校とかそういった時とは違って、今はこの多様性を受け入れて、また認めていかなくてはならないと思います。私も、自分の娘は多様な部類にいる子だと思っております。うちの娘は進学ではなく就職します。娘の現状を見ていて感じるのが、社会に出て通用するような武器、こういったものをもっと身に付けさせてあげたかったなという部分があります。一応就職先での内定は取れました

が、果たして社会でやっていけるだろうかという不安は尽きないところです。ですので、統合校では魅力的なカリキュラムがどんどんつくられていくとは思いますが、ぜひともその中で社会に出ても、もしくは本当に社会で通用するような特技や武器というものを磨けるような環境にしていただきたいと思います。

あとは、「地域の特色を生かした」という文言があります。これに関してですが先日県の教育委員会の情報交換会に参加させていただいたときにお話がありましたが、やはりこの下北・むつ市は斗南藩と非常に縁がある土地柄でもあります。この斗南藩の歴史を学んでいただきたいなという部分もありますし、またジオパークということで、全国に発信できる魅力を持っている地域でもありますので、この部分に関しても何らかのカリキュラムに取り入れていただければなと思います。

また最後になりますけれども、先ほど私の方で確認させていただいた災害に強いということ、この統合校がある場所は大湊の地区の中でも本当に一番人口が集中している方々が避難する場所ですので、その備えも出来れば強くして、地域の方々に安心してもらえるような取り組みになってくれればいいなと感じるところでした。

（又村委員）

この検討委員会の我々の委員としての責任は、要望書を出して、どれだけ県に伝わるかというのも非常に重要なことだと思います。例えばそれが無視という形で、全然反映されなければ、一体我々は何のために時間を割いて議論をしたのか、全然意味がないということになりますので、ぜひこの会議の場が、ガス抜きではないというところを県の方も十分理解していただきたいので、よろしくお願いしたいと思います。

（佐々木委員）

下北地区統合校検討委員会には６回出させていただいた。最初は同窓会長という名前で、途中から後援会長に変わりました。皆さんお疲れ様でした。何を言いたいかというと、本検討委員会は今日で最後になるのでしょうか。と言うのは、先日の情報交換会に出ましたが、その中での意見というのは、個人の意見ということになります。この要望書を出してから、統合校の開設準備委員会の方に出るということですけれども、そちらの方にこの検討委員会みたいなものを作って、御提案というか要望ということは考えているのでしょうかということを事務局の方に確認し

たいと思います。

（企画課長）

まずこちらの検討委員会が今回最後かという御質問がございますけれども、委員会自体はまだ委員の皆様に任期がございますので、継続はされます。ただ６回目で要望書案をまとめるということでしたので、必要に応じて開催されるものかと考えております。一方で、こちらの方の意見・要望書を御提出させていただくというふうな形になっておりまして、その意見をどのように受け止めていただけるのかという御質問が佐藤室長様の方にあったかと思いますが、そこは県教育委員会様の方で受け止めていただいて、次の開設準備委員会におつなぎするというところでございますので、市といたしましても引き続き、県教育委員会様と連携、情報共有を進めさせていただきながら、注視してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（半田委員）

今言ったのは、我々の要望書が知事や教育委員会だけでなく、その準備委員会にも出るのかと聞いている。出すのか、出さないのか。

（政策推進部長）

今井戸向課長の方からお話がありましたけれども、先ほど佐藤室長の方からも、この意見は一応県の教育委員会で聞き取って、それを少し検討しつつ来年度開催される開設準備委員会の方につないでいきたいという発言がありましたので、今のところは我々としてはつないでいただけるものだと認識しております。

加えて言うと、先ほどこれも課長からお話がありましたけれども、皆様の任期は実は来年の９月までありまして、要望書をまとめるのを６回でやりましょうということで最初にお示ししましたので、ひと区切りということではありますけれども、今後、例えばこちらの方から、又は皆様の方から、また集まろうと話があれば、再度御協力をいただく場面もあるかもしれませんので、その際はぜひ御協力いただければと思います。

（佐々木委員）

わかりました。そうすれば、その都度必要があれば、この検討委員会は開く。そしてゆくゆく

はその開設準備委員会の方にも地域の声を届けるという解釈でよろしいか。

（政策推進部長）

先ほどお話ししました通り、一応ひと区切りということですけれども、必要に応じてそういうことも考えていければと思います。

（半田委員）

佐藤室長、当然これが地元の声だということで、届けるはずですね。

（佐藤室長）

今政策推進部長さんも言われたように、いただいた要望書は開設準備委員会につなげていきたいと思いますので御安心いただければと思います。

（吉田委員）

皆さんお疲れ様でした。皆さんの御意見が沢山出ていたみたいですが、私は企業家として、会社経営しているものですから、今地元の企業の一番の悩みというか、そういうところをお話したいと思います。

何を言いたいかと言いますと、やはり人手不足というか、人手不足もありますが、人材不足というのが一番厳しい状態です。

うちはどちらかというと技術職というか、ある程度技術がないとできない仕事というところがあります。むつに、いろいろな工業、商業いろいろありますが、それに対して即戦力になるような人材づくりをやっていただければと思う。新採用が入りました、それを育てるのに５年・１０年かかります。昔はそういう時代でしたが、今はもう本当にもう即戦力が欲しいというところですから、まず少しでも、中央の方の学校に出ていくような人たちも必ず戻ってきてくれるような地域にしていきたいなと我々も思っています。ぜひ人材がここに居着くような感じの学校づくりというか、そうしていただきたいなと思っております。

（佐藤室長）

企業、会社の経営者として、必要な人材がなかなか入ってこない、もしくはそういう人材がい

ても、他県、都会の方に流れていくという御意見ですが、むつ市・下北だけでなくて、全県的にそういう傾向がございます。県といたしましては、そういうこどもたちへの進路志望を曲げてどうのこうのはできませんが、こどもたちが希望する、選択する進路を実現させたい。県としては、何らかの形で青森県に貢献、また愛着を持って生活していくといった事業に取り組んでおります。その中の一つとして、斗南藩とかジオパークというような地域のことを学ぶということ、青森学ということで、各県立学校、地域のことについて学びながら、地域を知ることによって愛着を持っていく、それぞれの思いを地域に還元していくことができるのではないか、そういうことも含めながら、取組をさらに進めていきたいと考えています。

（阿部委員）

今の中学校１年生が統合校の新１年生になります。横浜町さんを含めて近隣６市町村のこどもたちが行きたいと思える学校にすること、そしてこの学校を選んで良かった、そういう思いをもって卒業できる、そういうカリキュラムが営まれるように、これからも見守り続けることが我々の仕事ではないかなと思っています。

そして、皆様方の御意見の中で、複数の委員の方が中高連携に触れてくださっています。連携をさらに進めて、そのパイプをもっと太くしていかなければならないし、加えて今の世の中では、昔みたいに、言われたことが間違いなくちゃんとできる、そういう人間ではなくて、何らかの資質、能力を持った、何かができる、そんなジョブ型の人間が求められると言われています。我々学校の人間はそういうところは非常に鈍いですが、こどもたちが社会に出るにあたり、中高の時代から社会との接点をもっと広げる努力をしていかなければならないだろうし、そういった社会との連携等を含めてこどもたちがしっかりと、社会に出て困らないように我々義務教育の人間は人生１００年のうち、９年間しか見られないので、そこから先を自分の頭で考えて頑張って、そんな人間になるように皆様からいろいろな御意見を頂戴しながら進めてまいりたいと考えております。

私は今役所にいて、事務局の一部でもあるので、本当に何回も来てもらって、忌憚のない、核心に迫る御意見を頂戴して感謝しています。この意見が少しでも形になるように努めてまいりますので、今の私の話と違うことをしていると感じたときには、遠慮無く御指摘くだされば ありがたく思います。これからも御指導よろしくお願いします。

（佐藤室長）

県教育委員会としましては昨年度から、この会議にオブザーバーという立場で参加させていただいております。私個人といたしましては今年度からの参加ですが、オブザーバーとしての役割、情報提供を通じて皆様方の検討の材料になれたら、と思っております。２年間、本当に委員の皆様、ありがとうございました。お疲れ様でした。

（座長）

外崎室長（※前室長）さんと今日御欠席の内田委員さんが、ホテルで激しい議論をした光景を思い出しました。今日御欠席でございますけど、当初から地域の意見を聞きながら検討を進めているために出席いただいたことは、この委員会としては大変よかったと思っております。ありがとうございます。それでは各町村の教育長さんに順次御発言いただきたいと思います。

（大間町・山本教育長）

６回の会議ということで、それぞれ委員の皆様のお話、大変ありがたく思っております。話を聞くと、最終になるのではないかというお話でしたが、やはりこの検討委員会の目的はこの要望書案をつくることではないと私は思っています。要望書をつくって、それを実現することがやはり一番大事なことではないかなと思います。そういう意味ではこの要望書を県に出して、その後話し合いをするとか、意見交換するとか、そちらの方に力を注いで、よりよい学校をつくるためには、やはり案をつくってただ渡すだけではなく、ぜひまた皆さんが揃い、話をして、地域の意見を再度この委員会等で話しながら意見交換したらいいのではないかなと思っています。

ぜひ、せっかくいい案が出ましたので、さらに御尽力いただければなと思います。佐藤室長は何でも聞きますので、この間まで下北の教育事務所長でしたので、下北の事情はきっとわかっているはずなので、何なりとお話をしていただいて我々の意見をお渡ししていければと思いますので、これからもよろしくお願いします。

（半田委員）

全くその通りです。この検討委員会の要望書がいかに通ったか、それを検証する場が必要で、当然そう思います。

（風間浦村・村上教育長）

今朝の東奥日報で、県の教育改革有識者会議の提言の記事が載っていましたが、その中で中・高のオンライン学習についての記事が載っていました。地域校について、私たちの村の前教育長が、第２次高校改革の時からずっと言っていた意見でした。北海道に行けば、どんな地域でも高校があり、オンラインを使って勉強しているという意見をずっと力説していた。ようやくそれが記事となって、新聞に出たので、おそらく前教育長は喜んでいると思います。何を言いたかったのかというと、やはりこれからどんどん人口減少で青森県の学校は小規模化していく。小規模化している学校をいかに、できるだけお金・コストをかけないで学校を存続させていけるかが高校の課題になっていくと思いますし、言葉を変えれば、私たち自治体の村の実態も本当にそうです。小規模化していく学校も存続させていかなくてはならない。そのための方策としてどうするかというときに、この要望書の中にこどもや保護者、関係機関の方々の意見がいろいろ集約されておりまして、もしかすると存続させていくための方策が書かれているかもと考えております。

長い時間をかけて、話し合って、ようやくこの要望書案ができましたので、そのむつ下北の思いを、ぜひ汲んでいただいて、そしてこれから高校の存続の考察ということも、ぜひ県の方が主となってやっていただければと思いました。

（佐井村・曽根教育長）

皆様お疲れ様でした。この席からですが、大変勉強させていただきまして本当にありがとうございます。

国連が２０３０年までに成し遂げたい持続可能な開発目標「ＳＤＧｓ」がございますけれども、その根底に流れている精神が、「誰一人取り残さない」というふうに言われています。「誰一人取り残さない」、非常に重い言葉だと思います。国連が全地球・全世界に向けてそれを発信していると私は捉えていますけれども、今、予測困難な時代とよく言われていて、今のこどもたちが大人になった時には、私たちが経験しなかったような社会生活、つながりになると言われています。それを見越して、県教育委員会さんの方では各種改革の方を進めていらっしゃると思っております。

その中で、皆様がこうやって要望を沢山考えて、たくさんの思いを込めてつくった要望書をしっかりと見ていただけると思いますし、今後も、今だけではなくて、１０年後、２０年後、３０年後をやはり見ていく必要もある。今のこどもたちも大切にしていかなければならないというと

ころもあると思います。そうした時に、やはり先ほど多様性という言葉も出てきましたけれども、誰１人取り残さないという中には、多様性を認める、多様性を生かすということが非常に重要になってくると思います。

先ほど定時制課程のお話がありましたが、定時制課程の倍率が上がっていると聞いたときには、多分どなたも田名部高校の定時制の定員を増やせばいいのではないかとそれが一番簡単な方策というふうに思われるのかなと思いました。ただ普通科と、今私たち、皆様がこうやって取り上げているのは、全く違うものです。その認識は非常に大事だと思っていて、工業高校、工業科の定時制を要望しているということを私たちは再認識しないといけないんではないのかなと思いました。田名部高校の定員を増やせばいいという、そういうお話じゃなくて、その多様なこどもたち、多様性を最大限伸ばしていけるような、やはりその専門なこと、技能を身につけるような工業の教育課程の中の定時制は大変難しいことになるとは思いますが、そのあたりのことを大事にしているというところを、検討委員会の皆様が持って帰っていただければいいことだなというふうに思っていました。

本当に今までお疲れ様でした。ありがとうございました。

（横浜町・小原教育長）

上北地区で唯一、横浜町がこの会議に参加させていただいてきました。こどもたちの進路の選択肢、あるいは大人の交流という意味でも、むつ下北地区と非常につながりがあります。

新しい学校がいよいよ、今の中１の生徒達が、第１期入学生になるわけですが、その前年には保護者や学校関係者対象の学校説明会があると思います。あまりそういった学校説明会には教育長の立場で参加することはないのですが、それに関しては参加したいです。

皆さんが様々な観点からつくり上げた要望書に書かれてあることが、どれぐらい反映されて、地域のことを大切にしながら学校がスタートしていこうとしているのか、そういったところを感じることができれば、私も嬉しいなと思っております。

３年、私が教育長で居ればそれに参加してもいいのではと思いますので、これからも応援していきたいと思います。本当に勉強なりました。ありがとうございました。

（座長）

全員から御発言いただきました。これで一応会議を締めたいと思いますが、最後に私から一言

御挨拶を申し上げます。

私はここ５～６年ほど、全国募集をしている高等学校を訪ねて全国各地を歩いております。この間、数えてみたら歩いていない県は３県しかないということを確認しまして、それくらい歩いております。

青森県の場合、県にいろいろと、残せというふうに言っているのですが、それに対して県の方もいい顔ができないというのは当然の事でございます。

他県の場合はですね、市町村の方でもそれなりに金も出して存続の方策を探るということをしています。そういうことが全国的にこうした取組で成果を上げていることだろうと思います。

そういった意味で、むつ市の取組は大変素晴らしく、前市長それから前教育長様には深く敬意を表するものであります。この取組が、数回の会議の成果を基に実りある形になるようにしていただくことを心から願っております。

思えば、私が初めて校長になったのが、大間高校の校長でした。そのときは杉山市長さん時代でした。杉山市長さんは、市の職員の方は御存知だと思いますが、ウイスキーをお持ちになって、私ども教員と話をして、最後まで付き合うという地域でございました。そういったものが脈々と生きていて、こういった取組になっているのかなとここ数ヶ月感じながらお役を務めさせていただきました。

ともあれ私の力不足でなかなか思うような形にならなかったかと思いますが、ぜひこれを生かして、県の方にも頑張っていただき、市の方も頑張っていただいて、いい形で下北の発展につながるような教育が行われるようにと強く願って終わりにしたいと思います。本当にありがとうございました。

それでは事務局にお返しします。

４．閉会

（司会）

高橋座長、委員並びにオブザーバーの皆様ありがとうございました。それでは最後に政策推進部長の角本から皆様にお礼の御挨拶がございます。

（政策推進部長）

終わりということではないということで、先ほど皆様から御意見賜りましたので、一区切りと

いうことでお礼の御挨拶にしたいと思います。

まずは委員の皆様、オブザーバーの皆様、昨年度から引き続きましてこの会議に御参画いただきまして大変ありがとうございます。本会議では、委員の皆様から、こどもたちの未来や、地域の将来について思いをはせながら、貴重な御意見、忌憚のない御意見をいただいたと感じております。本当にありがとうございます。

先ほど、３年前は地区懇談会を、というような話をさせていただきました。あの時、ちょうど１０月の３回目の時だったと思っていますけれども、３回開催して地域の皆様からは、いろいろな意見、熱い意見が出ていたと思います。その熱い気持ちというのは、ここでも変わらないものであったと思います。それが今要望書になって、この要望書を青森県教育長風張教育長のところに市長、座長とともに届けに参りたいと考えてございます。

一方で先日１０月８日に、先ほどお話が出ておりました情報交換会、こちらの方も始まったと伺っております。委員の皆様の中にも、そちらにも参画されている方がいらっしゃるというふうに私どもも聞いておりますので、またそちらの方でも御意見を出していただいて、こどもたちの未来のために御尽力いただければ幸いであると思っておりますので、よろしくお願いいたします。

繰り返しになりますけれども、皆様の任期はまだあと１年くらい残っておりますので、もし今後、必要だということであれば、また集まっていただいて、こういうことがあったとか、こういうふうになったというところを確認するようなこともあるかもしれませんので、その際はまた御協力いただきたいと思っております。

最後になりますけれども、委員の皆様のこれまでの御協力と御労苦に感謝いたしますとともに今後また、御協力、御支援、御指導の方をいただきたいというふうに考えていますので、よろしくお願いいたします。会議に御参画いただき本当にありがとうございました。

（司会）

以上をもちまして本日の会議を閉会させていただきます。これまでの御協力、誠にありがとうございました。